

音楽教育専修

初等教育履修分野 / 中等教育履修分野

音楽を通して子どもたちを成長させるため、豊かな感性、実技、理論、教育実践力を持った教師を育てます。

◆ 学びのポイント

1 幅広く音楽実技を学べる

声楽、ピアノ、管楽器、和楽器などの演奏技術、合唱、伴奏などのアンサンブル技術、指揮法、創作技術など、自らの音楽表現の能力を高めるため、いろいろな実技を学ぶとともに、子どもたちの音楽表現活動の指導法について学びます。



2 音楽を教えるためのすぐれた方法を学べる

子どもたちに音楽の時間を楽しく過ごしてもらい、さらに音楽の美的、知的な世界に導くため、そのための理論と教育実践の方法について学びます。

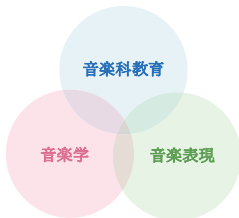
3 音楽や音楽と社会との関係についての理論を学べる

音楽を学ぶために必要な一般的・専門的な理論、さらに民族音楽学・ESDなどの観点から音楽と人間の関係を学びます。

◆ 学びの領域

実技と理論の両方をしっかりと身につけた教員になるための3つの学び

音楽表現・音楽学・音楽科教育についての理論や技術をバランス良く学びます。



音楽教育専修の授業スケジュール

【3回生前期の一例】

	MON	TUE	WED	THU	FRI	集中講義
1・2時限		ESD・SDGs 基礎論		教育実習・事前指導		幼児と健康
3・4時限		初等教科実践法		教育実習・事前指導		学習指導と学校図書館
5・6時限		演奏法Ⅰ (声楽)				
7・8時限		学校経営と学校図書館		合奏Ⅰ	伴奏法Ⅰ	
9・10時限	日本音楽実習Ⅰ	合唱Ⅲ		ESDと学校教育		



日本音楽実習Ⅰ

長唄三味線演奏を通して日本音楽について学びます。



演奏法Ⅰ (声楽)

声楽の演奏技術、表現方法を学びます。



演奏法Ⅱ (器楽)

ピアノの演奏技術、表現方法を学びます。



合奏Ⅰ

リコーダーや教育楽器のアンサンブルによって合奏の面白さを学びます。

Student's Voice

在学生の声

「基礎知識から専門知識まで、専修の仲間と切磋琢磨して学ぶことができます。」



音楽教育専修3回生
森岡 優菜さん
 (大阪府立茨木高等学校出身)

音楽教育専修では、音楽を様々な観点から学び、音楽についての知識や技能を高めるとともに、教育現場でどのように生かすことができるか考える力を養うことができます。

その専門科目は多種多様で、声楽やピアノ、作曲編曲や指揮法など教育大の域を超えた専門性に溢れる授業や、合唱や伴奏法・合奏など教育現場と深い関わりのある授業があります。

1学年20人弱と少人数な上、専門科目も多いため、専修の仲間と切磋琢磨して学ぶことができます。また、年に数回ある演奏会や毎年3月中旬に開催する学生オペラでは、今まで学んできたことを活かし、仲間と支え合って作り上げていくという貴重な経験を積むことができます。

みなさんもぜひ音楽教育専修で、私たちと一緒に音楽を通して学びを深め、素敵な先生を目指しましょう!

主な開講科目

声楽Ⅰ / 音楽理論 / ピアノⅠ / ソルフエージュ / 管楽器Ⅰ / 指揮法Ⅱ / 日本音楽実習Ⅰ / 作曲・編曲理論 / オペラⅡ / 演奏実習Ⅰ / 伴奏法 / 合唱Ⅰ / 中等教科教育法Ⅰ～Ⅳ (音楽)

取得できる免許状

- ・[初等教育履修分野] 小学校教諭一種 等
- ・[中等教育履修分野] 中学校教諭一種 (音楽) 等 (P.6,7「取得できる免許状・資格」のページ参照)

卒業後の主な進路

毎年、卒業生の8～9割が小学校教諭に採用されています(期限付き講師などを含む)。学級担任や音楽専科として、毎日子どもたちに囲まれて、元気に活躍中です。その他に、中学校教諭、企業に就職、大学院に進学する人もいます。

教員および専門分野 (令和元年5月1日現在)

- ・前田 則子教授 / 器楽
 ピアノ演奏法、伴奏法、及びピアノ教育、ソルフエージュ教育の研究
- ・北條 美香代准教授 / 作曲
 作曲法、編曲法、管弦楽法、及び創作指導法研究
- ・劉 麟玉教授 / 音楽科教育
 音楽科教育法、音楽教育史、民族音楽学、音楽社会学についての研究
- ・水野 亜雁准教授 / 声楽
 声楽(オペラ、独唱・重唱、合唱)における発声法と表現方法及び指導法の研究